

日本 NPO 学会第 11 期理事会 第 19 回理事会議事録

開催概要

日時：2022 年 5 月 26 日（木）19:00～21:30

場所：日本 NPO 学会事務局

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部公共政策学研究室

開催方法：WEB 会議ツール「Zoom」を利用したオンライン開催

出席理事：石田会長、坂本副会長、青尾理事、岡田理事、岡本理事、川中理事、菊池理事、粉川理事、小田切理事、鈴木理事、出口理事、中嶋理事、仁平理事、長谷川理事、松島理事、森理事、三木理事、李理事

欠席理事：稲葉理事、大久保理事、小島理事、桜井理事、菅野理事、戸川理事、早瀬理事

出席監事：上原監事

議案・配布資料

別添の議事次第および配布資料を参照

1. 理事会の成立、進行、出席者の確認等

(1) 理事会の成立の確認

会則第 26 条の定めにより、過半数の理事（25 名中出席 18 名、委任状提出 4 名）が出席であり、本理事会が成立していることが確認された。

(2) 議長

会則第 25 条の定めにより、石田会長が議長を務めることが確認された。

(3) 議事録署名人の選出

会則第 26 条第 3 項に基づき、議事録署名人として、李理事、青尾理事が選出された。

2. 審議事項の経過と結果

(1) 第 1 号議案：2021 年度決算報告案について

石田会長より、2021 年度決算報告案について提案がなされた（第 1 号議案資料）。前年比で会費受取額が減少したこと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会議費や旅費の支出が大幅に抑制されたこと、学会事務局職員の雇用がなく人件費の計上がな

かったこと、次期繰越正味財産額が 1200 万円を超えたこと、などについて説明が行われた。

また、上原優子監事より、2021 年度監査が実施されたこと、また、監査報告書を作成中であること、について説明が行われた。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第 1 号議案については原案どおり承認がなされた。

(2) 第 2 号議案：2021 年度事業報告案（修正案）について

石田会長より 2021 年度事業報告案（修正案）について提案がなされた（第 2 号議案資料）。3 月理事会で指摘があった事項を盛り込んだこと、3 月末時点の会員数等を追記したこと、などについて説明がなされた。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第 2 号議案は原案どおり承認がなされた。

(3) 第 3 号議案：2022 年度事業計画案（修正案）について

石田会長より 2022 年度事業計画案（修正案）について提案がなされた（第 3 号議案資料）。3 月理事会で指摘があった事項を反映した修正案であること、について説明がなされた。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第 3 号議案は原案どおり承認がなされた。

(4) 第 4 号議案：2022 年度予算案（修正案）について

石田会長より、2020 年度事業報告（素案）について提案が行われた（第 4 号議案資

料 1、資料 2 及び資料 3)。3 月理事会以降の状況を踏まえた修正版であること、理事会の旅費を計上したこと、当期収支差額を 0 円で計上したこと、などについて説明が行われた。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第 4 号議案は原案どおり承認された。

(5) 第 5 号議案：第 25 回研究大会実施案について

粉川大会運営委員会委員長より、第 25 回研究大会実施案について提案が行われた(第 5 号議案資料)。2023 年 6 月 10 日～11 日かけて京都産業大学を開催校として実施すること、開催校代表者が鈴木康久会員であること、開催方法は対面・遠隔・ハイブリッド開催等を総合的に判断して決定すること、実行委員会及び企画委員会の委員とうについては後日選定すること、などについて説明がなされた。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第 5 号議案は原案どおり承認された。

(6) 第 6 号議案：日本協同組合学会との共催について

岡田学術研究委員会委員長より、日本協同組合学会との共催について提案が行われた(第 6 号議案資料 1 及び資料 2)。2022 年 9 月 10 日に「市民の自立・自律と労働者協同組合」(仮)をテーマに開催されるシンポジウムを当会と共催したいという趣旨であること、当会の費用負担はとくにないこと、登壇者に入っている坂本治也会員は、当会副会長ではなく個人として登壇すること、などについて説明が行われた。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第 6 号議案は原案どおり承認された。

(7) 第7号議案：新規入会会員の承認について

石田会長より、新規入会会員の承認について提案がなされた(第7号議案資料)。2021年3月1日から2022年4月末までの入会希望者が5名あったことについて説明があった。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第7号議案は原案どおり承認がなされた。

(8) 第8号議案：次期理事会への引継ぎについて

石田会長より、次期理事会への引継ぎについて提案がなされた(資料なし)。次期理事会への引継ぎが必要であること、本日、議論の時間をとって理事会としての引継ぎ事項を検討したいこと、などについて説明があった。また、小田切事務局長より、委員会ごとに、申し送り事項をまとめ、定時総会までに事務局宛てに書面で提出頂きたい旨、提案がなされた。

全議案の審議終了後、ランダムにグループ分けを行い、次期理事会への引継ぎ事項について議論が行われた。

質疑

- ・大学院生や実務家の方々に入会していただく取っ掛かりとして、大会への優秀発表賞受賞者のご発表を論文化する支援や、実務家にメリットのある共同プロジェクトやメディア戦略を検討すべきではないか。
- ・学会誌の投稿論文査読者に対して丁寧な対応ができていないのではないかと。今後、査読への謝意をきちんと行うことをはじめ、謝金対応や、査読したことを業績として評価できるような取り組みが必要。
- ・学会の広報について、SNSを活用すべき。若い人にはメールを送ってもあまり反応がないので、それぞれ適したツールで広報を行うべきでは。
- ・現理事会として、若手が伸びやかに動いているのは良い流れではないか。
- ・組織運営全般について、理事は会務全般をみる形にして、委員会は会員から選出するという点でもよいのではないかと。例えば、学会賞選考委員についても、理事改選の度に委員が入れ替わるので、選考基準も安定しない。また、理事ではない過去受賞者に選考委員を務めてもらった方がよい場合もある。
- ・今期理事会では、大きなアジェンダが見えにくかった。学会として取り組むべきプライオリティーが見えなかった。学術研究委員会、ウェビナーを複数実施したが、大き

な方向性でもって企画推進はできなかった。

- 今期は理事が委員会業務に追われた感があった。NPO 学会として次に臨むべき課題について協議していく時間が設けられると良かったのではないか。学会を何のために設立したのかという起点／原点からの見直しも必要。25 周年を機会に点検評価を行った方がいいのではないか。
- 事務局について、小田切さん個人に頼り切り。小田切さんがいないと回らない形になっている。中長期的に組織として有給雇用することを考えないといけない。まずは副事務局長を置いて、負担を分け合うことを考える必要もある。
- 組織の規則づくりについて、三木先生に大きく甘えている。
- 学会として研究倫理教育をどう推進するか。これは足を引っ張るためではなく、自由な研究活動を担保できるようにするために取り組むものである。
- ライバルとしてどこを意識するか。例えば、勢いのある中国勢にも目を向けるのか。国際的な視点をもって、「これでいいのか」ということを考えていく必要があるのではないか。
- ジェンダーはもちろん、理事にダイバーシティがあった方がいい。
- NPO 研究では科研費採択が難しい現状。NPO 学会としても声をあげていく必要がある。
- 委員会の負担が結構重いと感じた。とくに編集委員会では新たな業務が増えたりして大変だった。
- 編集委員の査読で使用しているシステムが、会員名簿と連動しておらず、使いにくい改善が不可欠。
- 理事会で決議しなければならない事項が多い。2 年間で理事会開催 19 回は一般的にみて多すぎる。これは規程が厳密すぎるのが原因であり、今後整理が必要ではないか。
- 大会のオンライン化はメリットが大きい。次回もぜひハイブリッドを検討してほしい。また、大会運営も分業体制によって各自の負担が減り、スムーズになったのではないか。
- 広報の強化。以前のニューズレターのような企画をオンラインでできないか。また、若手の獲得に向けて、もっと支援をすべき。
- NPO 学会はどこに向かうのか。実務の世界では変化のスピードが非常に早いですが、学会はそれらについていけているのか。ここ数年の大会でのトピックも、かなり細分化されてしまっている。中長期的な視点で、非営利セクターのイニシアチブをとれるように検討すべきでは。
- 会員同士が学会に愛着をもち、連携しながらアウトプットを出せるような企画や研究会の機会が提供できるとよい。
- 事務負担に関して、会員管理と同じく、外注できるものはもっと外注してもよい

のではないか。

承認事項

審議の結果、上記を次期理事会への申し送り事項とすることが承認された。

3. 報告事項の経過と結果

(1) 報告 1 : 執行務報告

石田会長より、執行部報告が行われた（報告 1 資料）。2021 年度監査が実施されたこと、定時総会の配布資料は 6 月初頭に会員向けに配布予定であること、現在準備中の一部資料については、理事会メーリングリストで共有したうえで配布すること、について説明が行われた。

(2) 報告 2 : 組織運営委員会報告

三木組織運営委員会委員長より、委員会報告が行われた（資料なし）。前回理事会以降ではとくに報告がないことについて説明があった。

(3) 報告 3 : 学術研究委員会報告

岡田学術研究委員会委員長より、委員会報告が行われた（報告 3 資料）。若手研究者への国際学会参加支援助成金について、2021 年度 2 回目の採択者から辞退の連絡があり承諾したこと、3 月 22 日にウェビナーを開催したこと、などについて説明があった。

(4) 報告 4 : 大会運営委員会報告

粉川大会運営委員会委員長より、委員会報告があった（資料なし）。第 24 回研究大会の準備を進めていること、大会前の最後の広報等を行っていること、などについて報告があった。

(5) 報告 5 : 編集委員会報告

菊池編集委員会委員より、委員会報告があった（資料なし）。学会誌 Vol.22, No.1 の論文査読を行っていること、Vol.22, No.1 の論文査読及び Vol.22, No.2 の特集論文に関しては第 11 期理事会解散後も現委員会が引き続き担当すること、また、EBSCO のデータベースへ学会誌を掲載する件に関して、自己剽窃の疑いがある論文についてどのような扱うか、執行部へ相談したこと、について説明があった。

質疑

・ EBSCO の件については、第 11 期の残りの任期内で理事会として何らかの対応をすることは難しいため、次期理事会での対応として引継ぎ予定である。その際に、必要に応

じて第 11 期の編集委員会の方々にも加わっていただければと考えている。

(6) 報告 6 : 学会賞選考委員会報告

岡本学会賞選考委員会委員長より、第 20 回日本 NPO 学会賞の選考結果について報告があった（報告 6 資料）。計 6 点の応募があったこと、優秀賞として桜井政成（2021）『福祉 NPO・社会的企業の経済社会学－商業主義化の実証的検討－』及び“Yanagi, Itaru, Kobashi, Yohei, Pekkanen, Robert J., & Tsujinaka, Yutaka. (2021). Distinguishing Providing Public Services from Receiving Government Funding as Factors in Nonprofit Advocacy. *VOLUNTAS*. 32, 534-547.”が、選考委員会特別賞として金川幸司, 後房雄, 森裕亮, 洪性旭編（2021）『協働と参加－コミュニティづくりのしくみと実践－』が選定されたことについて説明が行われた。

(7) 報告 7 : 選挙管理委員会報告

仁平選挙管理委員会委員長より、委員会報告があった。理事候補者選挙を実施したこと、現在、理事候補者名簿の確定を行っていること、などについて説明が行われた。

小田切選挙管理委員会委員長より、今後、現理事、新理事、会員向けに、それぞれ異なる内容で選挙結果通知が行われる予定であることについて説明があった。

以 上

議長

石 田 祐 _____ 印

議事録署名人

李 妍 焱 _____ 印

青 尾 謙 _____ 印